

京都府立医科大学小児外科では、以下の研究を開始しました。

「小児先天性肺疾患における感染症発症および癌化リスク解析」
(京都府立医科大学倫理審査委員会承認)

研究期間 : 承認日～平成 37 年 3 月 31 日

研究責任者 : 田尻 達郎

先天性に認められる肺嚢胞性疾患 (congenital cystic adenomatoid malformation、肺分画症、bronchogenic cyst 等) は発見時に症状がなくても重症肺炎の発症または癌化がみとめられたりするという報告もあります。感染症発症もしくは癌化のリスクの解析を行うことにより、これらの二次疾患の発症予防を考慮した治療法を選択することが可能であると考えられます。本研究にて我々は、小児先天性肺疾患の臨床経過および切除肺の解析を行い、感染症発症および癌化リスクの検討を行い治療に応用することを目的とします。

今回以下の基準に該当する方を対象者とさせていただきます。

先天性嚢胞性肺疾患と診断された 0 歳以上 50 歳未満の患者さん。

当院で検査、手術時に切除された組織の一部を研究に用いるため、対象となる患者さんに余分なご負担をおかけすることはありません。また、この研究の結果は専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、お名前、生年月日、住所などの個人情報にかかわるデータは一切使用いたしません。

上記の研究に組織および診療情報を使用されることに同意されない患者さんやご両親は、平成 27 年 12 月 31 日までに下記にご連絡くだされば、解析対象から除外させていただきます。同意されない場合でも、診療上で患者さんが不利益を被ることは一切ありません。また上記研究に関して、ご不明の点がございましたら、いつでもお問い合わせください。

京都府立医科大学大学院小児外科学

電話番号 075-251-5809

担当者名 文野誠久